昭和四十年五月

伊能忠敬記念事業について

社団法人 東京地学協会

伊能忠敬測地遺功表再建の趣旨

伊能忠敬は本邦最初の科学的な実測日本地図、「伊能図」を完成した偉大な先覚者であります。今から百六十年前は、交通も不便であり、未だ封建諸侯割拠の頃でありました。伊能忠敬はこの中にあって十八年の間、北は北海道から南は九州・種子ケ島に至る全国津々浦々にわたって天測にもとづく精密な測地・測量を行い、多数の地図を作り、ここに初めて地球上におけるわが国の全輪郭と骨格とが明らかにされ、それらの地図にもとづいて編纂された大日本沿海輿地全図は、その後オランダの学者シーボルトによって広く海外に知られ、先進諸国を驚歎させるところとなり、世界的にその価値が認められたものであります。

不遇な少年時代を向学心に燃えながら過ごした伊能忠敬は、十八歳で伊能家の養子となり、酒造・米穀・薪炭などの家業に精励し家運を挽回して家をゆずり、五十歳にして江戸に出て当時天文暦法の第一人者といわれた十九歳も年下の高橋至時の門に入りました。かくして、それまで家業の余暇に修めたところを基礎として学問の道に精進し、測地・測量の技術を身につけ堅忍不抜の精神をもってこれを実地に行い、あの偉業を成し遂げたことは、学問技術に志す者の鑑として後学の心を奮い立たせずにはやまぬことであり、ながく人々の心に留めおかれるべきものであります。

明治十二年に創立された社団法人東京地学協会は、伊能忠敬の功績を記念し、各界の協力を得、恩賜の資金も得て、大先輩渡辺洪基、大鳥圭介、大倉喜八郎、福地源一郎、渋沢栄一、佐野常民等の諸氏の努力により、明治二十二年東京芝公園円山に青銅製の「贈正四位伊能忠敬先生測地遺功表」を建てました。この遺功表は強固な石造台座の上に高く聳え、四囲に鉄柵をめぐらした豪華なものでありました。

東京地学協会は、戦後の荒廃の時期を脱し、第二次大戦中に失われたこの遺功表の再建を計画して、関係各方面と相はかり、新構想による設計を得、各界の御協力によって、ここに「伊能忠敬測地遺功表」を旧地に再建するに到ったものであります。

伊能忠敬の事蹟はわが国開化史上のみならず、世界の科学史上においてもその意義は大きく、新たに国民の脳裡に刻まれたその研鑽と努力の生涯が後学を励まし、国民精神の作興に寄与するところ少なからぬものがあろうと考えます。

社団法人　東京地学協会

会長　細川護立

伊能忠敬記念事業実行委員長　飯本信之

伊能忠敬記念碑再建世話人

青木均一　東竜太郎　足立正
安西正夫　安藤豊禄　石川一郎
岩沢忠恭　植村甲午郎　大林芳郎
小島新一　兼子勝　久留島秀三郎
柴田等　菅礼之助　鈴木清秀
十河信二　塚本裕四郎　辻村太郎
徳川宗敬　友納武人　西松三好
原安三郎　水田三喜男　宮地政司
武藤勝彦　和達清夫

（物故世話人）

加納久朗　岸道三　渋沢敬三

伊能忠敬測地遺功表再建経過概要

一、明治十六年（一八八三年）一月、東京地学協会 社長 北白川宮能久親王名で 伊能忠敬に対する 贈位につき請願、同年二月、正四位が贈られた。

二、明治十六年三月、伊能忠敬記念碑の建設を決定、建設資金の調達、その他の準備を開始した。

三、明治二十二年（一八八九年）十二月十四日、東京芝公園円山に「贈正四位伊能忠敬先生測地遺功表」完成、除幕式を挙げた。この建設のために金壱百円の恩賜金を賜った。

四、昭和十九年（一九四四年）九月二十三日、金属供出のための撤去に先だち、撤去式を挙行、石積の台座のみが遺されることとなった。

五、昭和三十五年五月、伊能忠敬記念碑を旧碑の台座を修復して再建することを決定、これがための調査、設計、資金調達等、諸準備を開始した。

六、昭和四十年五月八日、「伊能忠敬測地遺功表」竣工、除幕式を挙行。この記念碑の再建については多くの会社その他、関係各方面の多大の御協力を得た。なお、記念出版物「伊能忠敬の業績」の刊行を目下準備中。

伊能忠敬記念出版について

左記記念出版物刊行について目下準備進行中であります。刊行の暁には関係者各位に贈呈することとなっております。

一、出版物名

「伊能忠敬の業績」

二、内　容

（一）記　述　編

測地・測量その他種々の分野と角度からみた伊能忠敬の業績、伊能忠敬研究の概要等を新たな発掘資料にもとづいて執筆中。

（二）資　料　編

代表的伊能図の複製図、現存する伊能図の目録、伊能忠敬の測地・測量の記録・著書等の抄および新たな解説、伊能忠敬の用いた諸器具等に関する写真と解説、伊能忠敬に関する著書・文献目録と解説。

（三）英文摘要